

2014年3月5日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

「2013年度 ミズノ スポーツライター賞」受賞者決定

（公財）ミズノスポーツ振興財団では1990年度より「ミズノ スポーツライター賞」を制定し、スポーツに関する報道・評論およびノンフィクション等を対象として、優秀な作品とその著者を顕彰しています。

3月5日（水）、グランドプリンスホテル高輪で2013年度選考委員会を開催し、受賞作品および受賞者を以下の通り決定いたしました。

なおこの「ミズノ スポーツライター賞」の表彰式は、4月22日（火）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】（トロフィー、副賞100万円）

- ・『アイスタイム』 伊東 武彦（講談社）

【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】（トロフィー、副賞50万円）

- ・『アメリカの少年野球 こんなに日本と違ってた
～シャイな息子と泣き虫ママのびっくり異文化体験記～』
小国 綾子（径書房）

- ・『国立競技場の100年 ～明治神宮外苑から見る日本の近代スポーツ』
後藤 健生（ミネルヴァ書房）

詳細は別記の通りです。

記

名 称：2013年度 ミズノ スポーツライター賞

制 定 目 的：スポーツに関する優秀な作品とその著者（個人またはグループ）を顕彰し、
スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待するとともに、これからの
若手スポーツライターの励みになる事を願い制定

選 考 対 象：主として新聞・雑誌・単行本などを通じて書かれたスポーツ分野の報道・評論・
ノンフィクション等で、当該年度に発表されたもの

選 考 委 員：委員長 岡崎 満義（元㈱文藝春秋取締役、「Number」初代編集長）

委 員 杉山 茂（スポーツプロデューサー

元NHKスポーツ報道センター長）

〃 高橋 三千綱（芥川賞作家）

〃 ヨーコ ゼッターランド（スポーツキャスター）

〃 上治 丈太郎（(公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長）

※順不同

対 象 者：日本人および日本在住の外国人

受賞者及び選考理由：

●『アイスタイム』（講談社）

伊東 武彦（いとう たけひこ）

本書は、アイスホッケー日本代表のキャプテンを長く務めた名選手、鈴木貴人を軸に、鈴木が選手生活の最後に活躍した日光アイスバックスの闘いぶりと選手たちの群像を描き、その背景に日本のアイスホッケー50年の歴史を浮かび上がらせた労作である。第一章「暗闇」、第二章「変化」、第三章「時代」、第四章「逆襲」、第五章「断裂」、第六章「薄明」と章立てされており、章のタイトルは鈴木とアイスバックスのその時々境遇に即したものとなっている。世界が遠いマイナー競技、恵まれない待遇、そんななかでもプレーを続ける選手たちはどんな人たちで、アイスホッケーの何が魅力なのか。著者は多くの材料を提供して読者に伝えようとしている。

著者は元『週刊サッカーマガジン』編集長で、『AERA』でも人物評伝を手がけた人だけに、試合描写、人物描写ともしっかりしており、乾いた筆致は好感が持てる。

冬季五輪を前にした時期の作品であり、女子代表チームの活躍に興味を持った読者に、さらにアイスホッケーへの関心をつなぐ出版である。

●『アメリカの少年野球 こんなに日本と違ってた

～シャイな息子と泣き虫ママのびっくり異文化体験記～』（径書房）

小国 綾子（おぐに あやこ）

元新聞記者の母親と小学3年生の野球少年の息子は、父親（新聞記者）の海外赴任に伴い、2007年9月から4年間アメリカで暮らすことになった。息子はアメリカの少年野球チームに入ることにするが、言葉の壁、文化、価値観のギャップ、きびしい競争、親子は想像もしなかったさまざまな試練に直面することになる。本書は、そんな親子のアメリカ異文化体験記であり、過去にはあまり類似作品のないジャンルの秀作である。

日米の異文化交流、異文化体験が語られた書物は数多い。だが、少年野球を切り口にした本書は、まず著者の驚きを読者が容易に共感できる。そして、理解が深まり、野球の技術があがり、気がつくときサイレントピリオドの長かった息子は「お前、日本語なんてわかるの!？」とチームメイトに言われるほどになり、と母子の成長もわかりやすい。そしてその間に、読者に日本の少年スポーツや文化の違いを考えさせ、最後はスポーツの価値を改めて示している。著者は家族からいいテーマをもらった。

●『国立競技場の100年 ～明治神宮外苑から見る日本の近代スポーツ～』

（ミネルヴァ書房）

後藤 健生（ごとう たけお）

90年前に竣工した国立競技場（当時は明治神宮外苑競技場）は日本のスポーツのメイン会場として多彩なスポーツイベントが行われてきた。本書は競技場という「場」に焦点を当てるというユニークな手法で、そこで展開されたスポーツの内容とそれを生み出した社会と人間のありように目配りした近代日本スポーツ史である。

スポーツの容れ物である競技場とその内容であるスポーツの動きを相互に関わらせながら語りを進め、さらにスポーツの背景となる社会の変化、もろもろの事件とそれをめぐる人間模様、さらに国際政治の変化、国家間の対立、戦争、その背後にある経済問題にも目配りして立体的なスポーツ史を書き切っている。競技場での主要なイベントに注目して時代区分を設け（明治神宮大会、極東選手権大会、アジア大会、オリンピック、ワールドカップ等）、大会の内容を通してその時代のスポーツの全体像を浮かび上がらせている。研究書として見たとき、構想が明確で、資料（参考文献、年表、事項・人名索引）も手堅く、充実している。

以上

（お問合せ先）

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局 内橋 TEL. 03 (3233) 7009

ミズノ株式会社 広報宣伝部 東京広報課 木水 TEL. 03 (3233) 7037